

埼玉県川口市の既成市街地における歴史的景観・文化の保全方法の検討

研究代表者：小瀬博之（総合情報学部総合情報学科 教授）

研究分担者：尾崎晴男（総合情報学部総合情報学科 教授）

齋藤伊久太郎（客員研究員）

1. 研究の背景と目的

埼玉県川口市は、我が国が人口減少社会にある中で、人口増加を続けている自治体の一つであり、現在約 60 万人の人口を有する。2018 年 4 月 1 日に中核市へ移行し、今後もさらに発展していくことが予想される。しかし、JR 川口駅周辺地域を始めとする主要駅周辺地域の高さ制限の規制緩和やこれに伴う開発は、古き良きものの消滅ばかりでなく、街路の拡幅に伴う街の骨格や、それまでの景観の消失に伴い、いわゆる街の記憶が消滅するという危機状況に直面している。特に、川口市東部に位置する川口宿や鳩ヶ谷宿は、江戸時代の川口市における主要な街であり、現在の街の原点でありながら、こうした危機に瀕している。

2018 年度に実施した研究では、川口宿、鳩ヶ谷宿における魅力や課題を現地調査によって抽出した。それらを対象に、複数人の来街者による評価を行うワークショップを実施し、客観的な視野に基づく知見を得た。

本報では、そこで得られた魅力に対する保全方法や課題に対する改善方法について検討する。検討には鳩ヶ谷宿の周辺地域におけるゲストハウスの経営者に対するヒアリングに加え、2018 年度に実施したワークショップの参加者の中から、川口市で広くまちづくりに関わっているデザイナー、教育者、市民活動研究家に対する個別のヒアリングを行う。更に、後者の 3 名による座談会を通して得られた知見をまとめた上で考察する。



2018 年度に実施したワークショップ

2. 研究の方法

本報ではまず、昨年度行ったワークショップの参加者に対する個別のヒアリングを実施し、ヒアリング対象者個々人の川口市に対する関わり方について明らかにしたのち、川口市に関する考えや課題について意見を抽出する。さらに、個別にヒアリングを行ったメンバーで座談会を行うことで、相互に立場を理解したうえで、川口市に課題や今後のあるべき姿について意見抽出する。得られた知見をもとに、今後の川口市の既成市街地における歴史的景観・文化の保全方法について検討する。

3. 個別のヒアリング調査

(1) 調査の概要

ヒアリング調査は、いずれも川口市鳩ヶ谷宿周辺地域にあるゲストハウスの「風の森キッチン」で行った。概要を表1にまとめる。

表1. ヒアリングの概要

実施日時	対象者（その属性）
2019年9月23日 15:00～16:00	K氏（ゲストハウスの「風の森キッチン」オーナー）
2019年11月23日 11:00～14:00	E氏（コミュニケーションデザイナー）
2019年11月23日 14:00～15:00	C氏（教育関係者）
2019年11月24日 14:00～15:00	T氏（盛人大学 郷土川口再発見コース部会 部会長）

(2) K氏に対するヒアリング

○ゲストハウスについて

- ・築47年の2階建ての民家をリノベーションし、1Fにキッチンカウンターとリビング、2Fに男女混合のドミトリー、女性専用ドミトリーがそれぞれ1部屋、さらに個室1部屋を有し、2018年12月に開業した。
- ・このゲストハウスでは、宿泊の他にランチ営業やイベントの開催も可能。
- ・外国人、日本人問わずオーナーに近い人間が集まるので、利用者との人間関係が構築し易い。
- ・個室を少なくすることで、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。

○地域との繋がりについて

- ・地域のイベントの企画運営に参加していることに加え、自らアフロジャズのボーカルや民謡を演奏するなど、積極的に参加することによって、地域との繋がりを構築している。
- ・ゲストハウスを開放し、地域のこども向けのイベントを企画・開催している。
- ・鳩ヶ谷の魅力については、すでにまちあるきなどを自主的に行っており、ゲストハウス利用者のニーズに応じて紹介はしている。

(3) E氏に対するヒアリング

○イベントやお祭りについて

- ・朝顔市、ほおづき市、夏の陣（川口市のお祭り）を開催している。
- ・夏の陣は、跡見学園女子大学や地藏院を中心に考えるとよいのではないだろうか。
- ・三ツ和公園で開催されるイベントについては、若年齢層が主体的に企画運営するようになっており、内容や構成も変更した結果、若者が集まるようになった。市民の力がつながっているイベントが増えつつある。

○若者とまちづくりについて

- ・まちづくりはやりたいことをお互いにやる方が効果的で長続きする。
- ・町おこし、街づくりは「活性化」に寄与するが、楽しくないと長続きしない。長続きする仕組みを持つためには、当初から補助金を当てにしないことだ。
- ・歴史的文化については、残す価値のあるものが残るべきで、古い物全てを残していく必要はない。

- ・ 鋳物が川口市の文化であり、そういう意味では、ダルマストーブは生活文化として残す必要があるのではないかと。

- ・ 鳩ヶ谷は新しい人（新住民）と古い人（元々の住民）がうまくやっている。

○歴史的な標識について

- ・ 木下市長の時代の合併前に郷土資料館や商工会関係者が資料を残した。

- ・ 歴史的な標識のおかげで、視覚的に確認できない歴史的な要素を確認することができる。

- ・ 歴史的な標識のおかげで土日に歩く人が増えた。

(4) C氏に対するヒアリング

○ワークショップについて

- ・ 車で通過することはあるが、歩くことはなかったので良い経験になった。

- ・ 普段気づいていなかった街の要素について、歩くことで発見があった。

○教育におけるフィールドワークについて

- ・ 教育現場でフィールドワークについては、小学校では地図体験としてやっている。まち探検や、地図研修で気づいたことなど。

- ・ 社会に起きていることに対して疑問を持たないため、「寄り道はしてはいけない」に対してこれを忠実に守る。

- ・ 地図体験は、中学校では行わない。

- ・ 公立学校では地域と関わる機会があった。

○外国人の教育環境について

- ・ 移住してきた保護者は日本語が話せなくても、子どもは（中国人学校はない）話すことができる。

- ・ 「仲町小学校」の1/4～1/3は外国人が在籍している。

- ・ 中国では成績評価やその他の便宜を巡って賄賂が横行しているが、その点、日本はしっかりしている。

- ・ 中国では、勉強のできない子は職業学校へ進学することになっているようだ。

(5) T氏に対するヒアリング

○「盛人大学」について

- ・ 「盛人大学」専門キャンパスの設立の際に企画担当をした。

- ・ 座学と実地調査を企画運営している。将来的には「川口検定」を制作してみたい。

- ・ 6年前に「盛人大学」を作るとき「コミュニティデザイン」から「地域デザイン」を考える大学をコンセプトにした。

○「麦味噌復活」について

- ・ 他大学も入って「麦味噌復活」の話が出た。

- ・ 文化財センター分館で「川口味ものがたり」を開催した。

- ・ 西川口のシャッター街を「味噌」で開けようとする試みがあった。

- ・ 残っている商店が手を組んで、「西川口駅西口再生会議」を結成（2009年ごろ）。

- ・ 試みの中には、スタンプラリーもあった。

○昨年度のまちあるきとマッピングのワークショップについて

- ・ 取り組みはとてもよかった。

- ・ 得られた知見からまちあるきのコースを開発できないか。

- ・歩きながら街を知り、まちあるきの後で意見出しをすることで、相互に新たな街の姿を見出すことができる。
- ・それまで誰も気づかないところに気づくこともあるため、まちあるきの地図は改訂版を作ることも重要。
- ・地域活性化に寄与する次の展開を考えてみたい。
- ・開発の中で、古き良きものが喪失している状況を目の当たりにしているが、これを残していく手段を見出せていない。
- ・住民意識に町の「財産」を残す意識はつけたい。それには、地域検定、コンシェルジュが有効と考えている。

4. 座談会

(1) 調査の概要

個別のヒアリングを実施したE氏（コミュニケーションデザイナー）、C氏（教育関係者）、T氏（盛人大学 郷土川口再発見コース部会 部会長）を同時に集め、座談会を行った。場所は、個別のヒアリングと同様に「風の森キッチン」で行った。概要を表2にまとめる。

表2. 座談会の概要

実施日時	対象者（その属性）
2020年1月18日 15:00～16:30	E氏（コミュニケーションデザイナー） C氏（教育関係者） T氏（盛人大学 郷土川口再発見コース部会 部会長）

(2) 得られた知見

○川口市の課題について

- ・高齢者が引きこもってしまっている。高齢者の相互交流が必要。
- ・行政と市民の協働の場でもある「パートナーステーション」は、様々な事に対し、柔軟に対応してほしい。
- ・市民が団体を作って活動している地域は、行政サービスを活用するなどして、地域が良くなっている。



座談会の様子

- ・川口市の誇るべき鋳物や植木は、産業として捉えられているため、「業」の衰退とともに喪失していく。しかし、それらは地域固有の「文化」でもあり、この観点から保全する方向性は見出せないだろうか。
- ・川口市は文化の保全が不得手。また、芸術面においても、蔑ろにされている印象がある。
- ・首都圏で『本当に住みやすい街大賞2020』の1位に川口市が選ばれたらしいが、実感としてない。
- ・「川口都民」の職場は都内にあり、働いている時期に川口市のことをほとんど知ることがないが、退職してから多くを知ることになる。

- ・外部から転入者が多く、地域に関心のある住民が年々、少なくなっているように感じる。

○川口市のあるべき姿について

- ・都市化が著しいが、残っている自然が保全されていって欲しい。
- ・街中の巨樹など開発とともに安易に伐採されている印象があるが、街の記憶でもあることを留意して欲しい。
- ・川口市には、根強い市民力があり、これを活かして様々な課題に取り組むとよいのでは。
- ・鋳物や植木、味噌など地域を支えてきた産業がある。それらは、資料館や博物館で見ることができが、現在の生きた文化をとして顕在化することが必要。まだまだ一部にとどまって市民のアイデンティティには成り得ていない。

5. 考察と結論

昨年度のワークショップでは、川口宿や鳩ヶ谷宿における魅力や課題を地図にまとめた。本報では、その魅力の保全方法や課題の改善方法について検討するため、昨年度のワークショップ参加者、あるいはゲストハウスのオーナーへのヒアリングを行うとともに、座談会を行った。

川口市は、首都への食料供給源であり、工業の担い手としての歴史がある。現在の人口増加は、川口市の現在が住宅供給源になっていることとして理解できる。ヒアリングからは、川口市が歴史的文化や芸術の醸成が不得手であるとの指摘があったが、その要因は、常に首都の論理に振り回されてきた歴史的な背景にあるのではないかと推察する。その一方で、市民活動の活発な様子も知ることができた。盛人大学やその他のイベントなどがその一端にあり、特に若者の活躍があることは、将来的に明るい展望を見出せるのではないだろうか。

その上で、今後の川口市の既成市街地における歴史的景観・文化の保全方法についてはまず、まちの魅力や課題を住民やそれ以外の市民と共有することが重要である。何故ならば、魅力や課題は、対象とする要素に対する価値観の積み重ねによって、保全すべきか改善すべきかが決まるからである。逆を言うならば、公共性の高い要素であればあるほど、具体的な保全や課題には、多くの価値観の集積が求められる。地図はそうした場合に、情報共有のためのツールとして有効であり、具体的な場所だけでなく、記述の仕方によっては、要素が持つ特性についても把握することができる。具体的な場所への誘導については、魅力や課題に関する要素を線で繋いだまちあるきコースを設定し、広く市民と共有する方法が考えられる。また、川口宿あるいは、鳩ヶ谷宿において、仮設の店舗を展開するイベントを開催し、魅力や課題に関する要素を回遊するオリエンテーリングのような企画の実施が有効であると考えられる。その上で価値観を共有する集団が形成されれば、自ずと保全活動や改善活動の契機となる。また、そのようなイベントを定期的開催することによって、活動への参加者や支援者を募ることも可能であろう。

6. 謝辞

本研究の調査において、「風の森キッチン」の勝水様には、大変お世話になり、ありがとうございました。江口様、菊池様、田中様には、ヒアリング、座談会にご協力いただき大変ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。